

みやぎの 林業だより



表紙写真

東松島市で山行苗木を生産している齋藤豊彦氏が7月31日付けで、農林水産大臣賞を受賞しました。

写真は、現在力を注いでいる海岸防災林復旧用クロマツの苗畑とコンテナ苗木です。

<関連記事 P2 >

平成26年11月28日
発行

204号

目 次	【話 題】◎津山町林業研究会が 林業研究グループコンクールにおいて第一席を獲得！…………… 2
	◎東松島市の齋藤豊彦氏が農林水産大臣賞を受賞！…………… 2
	◎第七回「みやぎの森林・林業写真コンクール」 「みやぎ児童生徒木工工作コンクール」…………… 3
	◎県産材利用促進功労者表彰…………… 3
	◎県民の森中央記念館がリニューアルしました…………… 4
	◎南三陸町の木造災害公営住宅が完成しました…………… 4
	◎「ふるさと緑の道」宮城県グリーン製品PR事業による標識再整備…………… 5
	◎広域基幹林道「女川京ヶ森線」が部分開通しました…………… 5
	◎登米市産原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限が一部解除！…………… 6
	◎「登米市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会」が設立…………… 6
	◎原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限解除に向けた 生産工程管理研修会を実施しました…………… 7
	◎認定森林施業プランナーの育成について…………… 7
	◎亘理町蛭塚(鳥の海)の災害復旧工事が進んでいます…………… 8
	◎大崎市末沢復旧治山工事への思い…………… 8
	◎北海道・東北地区第五十回治山林道研究発表会が開催されました…………… 9
	◎宮城県林業公社が再建に向けて取組んでいます…………… 9
	◎林地開発が急増しています…………… 10
	◎一自然の大切さを学ぶ 第三十九回宮城県みどりの少年団大会が開催されました…………… 10
	◎登米市の森林で「カーボン・オフセット」しませんか？…………… 11
	【シリーズ】◎研究情報コーナー ・コンテナ苗等を活用した再造林コスト低減への取組…………… 11
【新シリーズ】◎森林管理署情報 ・製品生産請負現地検討会を開催しました…………… 12 ・「社会貢献の森」において小学生が総合学習を行いました…………… 12	
【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13	

**津山町林業研究会が
林業研究グループコンクール
において第二席を獲得!**

九月三日(水)、全国林業研究グループ連絡協議会等の主催で「東北・北海道ブロック平成二十六年林業グループコンクール」が盛岡市のつなぎ温泉で開催されました。

本県からは、登米市の津山町林業研究会が代表して発表を行いました。

コンクールでは、里口副会長から、津山木工芸品事業協同組合や民泊を長年続けている農林課の協力を得ながら、地元小学校児童に対して行っている森林施業体験学習や工業高校生を対象に実施しているインターンシップ活動について発表がありました。

そしてこれら活動により、後継者が育ったことや、未来を担う若者に森林施業を文化と伝え伝えていく必要性と、その活動自体が、地域振興に役立つことが報告されました。

審査は、「地域林業の特性を踏まえた活動か」「グループ主体の活動か」「地域林業に寄与するか」等の観点から行われま

した。その結果、森林を自ら購入し様々な活動を展開している女性グループや地元多くの小学校と連携し沢山の活動を実施しているグループ、放射能の風評被害と闘っているグループ等、並み居る強豪に競り勝ち、第一席を獲得し、三月に東京で開催される全国大会への切符を手に入れました。

全国大会では、東北・北海道ブロックの代表として発表内容に更に磨きをかけ、全国優勝の栄冠を手にするよう期待します。



賞状を授与される里口副会長(右)

(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

**東松島市の齋藤豊彦氏が
農林水産大臣賞を受賞!**

東松島市において長年にわたり山林用苗木を生産してきた齋藤豊彦氏が、平成二十五年度全国山林苗木品評会において優良なスギやヒノキの苗木生産や苗木の土づくりといった技術力が評価され、平成二十六年七月三十一日付けで農林水産大臣賞を受賞しました。

齋藤氏は、昭和四十六年より家業である山林種苗の生産に携わり、育苗技術の向上と優良苗木の生産に努めてきました。

豊富な経験と旺盛な研究心から研鑽した優良苗木生産技術の普及や全県の育苗技術の向上に貢献するとともに、同年度に宮城県農林種苗農業協同組合の役員に就任され、益々の活躍が期待されています。

苗木作りの特徴では、齋藤氏の苗木の土壌層は薄く排水性が乏しい土質ですが、排水性の確保と酸素供給を行うための、バックホウを利用した天地返しと、樹木の枝条を利用した暗渠排水が挙げられます。暗渠排水の枝条は数年後には腐葉土となり、土壌層の厚さを増す土壌改

良効果を兼ねています。齋藤氏の苗木は、東日本震災の津波による浸水を受け、塩害により多くの苗木が枯損被害を受けました。その後の残留塩分による成長不良も心配されましたが、天地返しとヨウリン、カルゲン、石灰等による土壌改良を施した結果、苗木は順調に生育しています。

現在は、マルチキャビティコンテナを活用した苗木生産を行い、その生産方法にも工夫を重ね優良苗木の生産を目指し努力を重ねています。

今後は、津波被害により消失した海岸防災林造成の本格復旧に向け、クロマツの生産にも注力していくこととしています。



苗木の状況
(東松島市)

(東部地方振興事務所)

第七回

みやぎの森林・林業写真コンクール
みやぎ児童生徒木工工作コンクール

「みやぎの木づくり運動」の一環で開催され、今年も多数の御応募を頂きました。主な入賞者は次のとおりです。

○「写真」コンクール

主催 公益財団法人みやぎ林業活性化基金

応募者数 三十人

◆最優秀賞 高橋 こうけん様

◆優秀賞 北村 卓様

◆同 二瓶 茂様



最優秀賞
「森の楽校ツリーハウス」

○「木工工作」コンクール

主催 宮城木材文化ホール運営委員会

応募作品数 九十三点

◆小学校低学年の部

◆最優秀賞 小椋 飛鳥様

◆優秀賞 最上 愛梨様

◆同 井上 椋太様



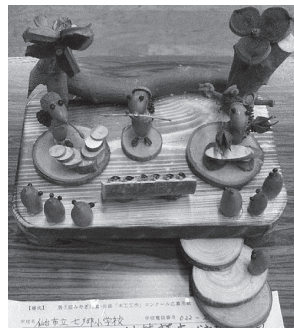
低学年の部 最優秀賞
「ふくろうのいえ」

◆小学校中学年の部

◆最優秀賞 川村 拓大様

◆優秀賞 小野 蓮斗様

◆同 伊澤 諒様



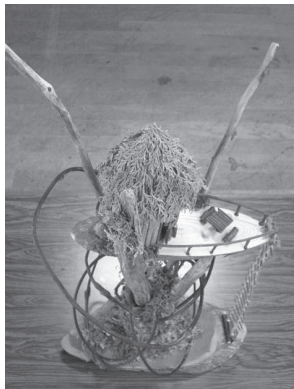
中学年の部 最優秀賞
「森のフェスティバル」

◆小学校高学年の部

◆最優秀賞 岡村 汐莉様

◆優秀賞 遊佐 隼人様

◆同 神尾 しゅう様



高学年の部 最優秀賞
「もし私が森の妖精だったら」

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

県産材利用促進功労者表彰

県では平成十九年から県産材利用拡大に顕著な功績があった個人・団体に感謝状贈呈を行っており、今年も左記の三団体が選ばれました。



仙南地域広域行政事務組合『消防庁舎の木造化』
左上から時計回りで、丸森出張所、村田出張所、川崎出張所、蔵王出張所



県内最大の木造公共施設
仙台市『泉岳自然ふれあい館』



登米市木造災害公営住宅建設推進協議会
『地元協議会方式による木造災害公営住宅の建設』



若生副知事より3団体の代表の方に感謝状を贈呈させていただきました(10月16日)

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

県民の森中央記念館が リニューアルしました

宮城県県民の森は、昭和四十四年に明治百周年の記念事業により開園した森林公園です。

面積四四三㊦を有する広大な敷地には、遊歩道やフィールドアスレチックなどの施設をはじめ、豊富な動植物や史跡に恵まれた環境が整備されており、年間約二十三人もの利用者があり、県民の憩いの場所となっています。

しかし、開園から四十年以上が経過し、県民の森のシンボリックな施設である中央記念館も経年劣化や東日本大震災等の影響により、老朽化や破損した箇所が随所に目立つ状況となりました。

そのため県では、みやぎ環境税を活用し、自然保護や環境学習の拠点施設として充実強化を図るため、一時閉館して改修工事を進め、このたび、施設改修工事の大部分が完了し、十月一日にリニューアルオープンしました。

○施設改修工事の概要 (一)内外装木質化工事

環境に配慮した学習施設として内装及び外装に県産材(優良品みやぎ材)をふんだんに使用し、炭素が施設に貯蔵されることにより、地球温暖化の防止に貢献する施設となりました。

(二)太陽光発電施設工事

自然エネルギー(太陽光)により発電した電力を、施設で使



リニューアルした県民の森中央記念館

用する電力の一部に利用することにより、自然環境への負荷を軽減する施設となりました。

○今後の施設改修計画

中央記念館展示物等改修工事を平成二十七年度に行います。

生物多様性の保全を中心とした環境学習の場や、県民の交流の場として多くの方に中央記念館を利用していただけるよう、老朽化した展示物等の改修工事を行い、施設の充実を図ります。工事期間中は一時閉館になりますので御了承ください。

(自然保護課みどり保全班)

南三陸町の木造災害公営住宅が完成しました

南三陸町が整備している木造災害公営住宅が完成し、八月一日から入居が始まりました。

完成したのは入谷地区と名足地区の木造一戸建てタイプ十四戸(入谷地区九戸、名足地区五戸)で、気仙沼管内の木造災害公営住宅の記念すべき第一号となりました。木造以外にも鉄筋コンクリート三階建ての集合住宅タイプが七十戸(入谷地区四十二戸、名足地区二十八戸)が同時に完成しています。



完成した木造災害公営住宅

八月二日には名足地区の復興住宅集会所において、小野寺防衛大臣、梶原宮城復興局長をはじめ国・県・町の関係者、工事関係者、入居者代表、地権者等約七十名が参加し、災害公営住宅の完成を祝う式典が開催

されました。関係者によるテープカットの後、佐藤町長らの挨拶に続き町の民俗芸能に指定されている伊里前獅子舞が披露され、祝賀ムードに包まれました。



災害公営住宅の完成式典

木造災害公営住宅の建設は、地元建設業関係・林業関係・製材業関係等の事業者からなる「南三陸町木造災害公営住宅建設推進協議会」が担っており、木材の約四十㊦に南三陸町産のスギ材が使用されています。

町と同協議会が買取方式による譲渡契約を締結し、住宅が完成した後に町が買い取る仕組みになっています。南三陸町では八地区七七〇戸の災害公営住宅を整備し、そのうち一〇〇戸を木造住宅とする計画です。

(気仙沼地方振興事務所)

ふるさと緑の道

宮城県グリーン製品PR 事業による標識再整備

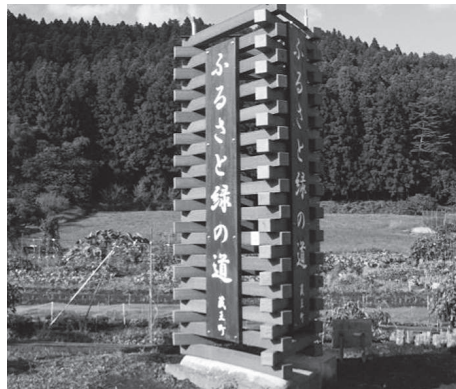
「ふるさと緑の道」は、「仙台県」が「宮城県」に改められてから一〇〇年を記念して、昭和四十七年に、本県の豊かな自然に親しんでもらうために設置されました。

遊歩道、既存の国県市町村道及び林道等を結び、奥羽山系(二五四線)と北上山系(全長一〇三線)の二ルート、全線約三五七線が設定されています。指導標などの案内標識も木製品により整備してきましたが、経年変化により腐朽等が目立つようになつたことから、「宮城県グリーン製品PR事業」で、環境に配慮した製品として認定を受けている県産未利用間伐材等を原料とした「復興再生ウッド」を使い標識の再整備を実施しているところです。



グリーン製品マーク (川崎町 指導標)

平成二十五年度から、蔵王町、川崎町、栗原市及び南三陸町の七十基を順次再整備する計画で事業を進めており、再整備後は、関係市町に標識の管理をお願いすることになっています。来年度以降も、「グリーン製品」のPRと併せた標識の再整備を継続して進めていきます。



蔵王町 案内塔



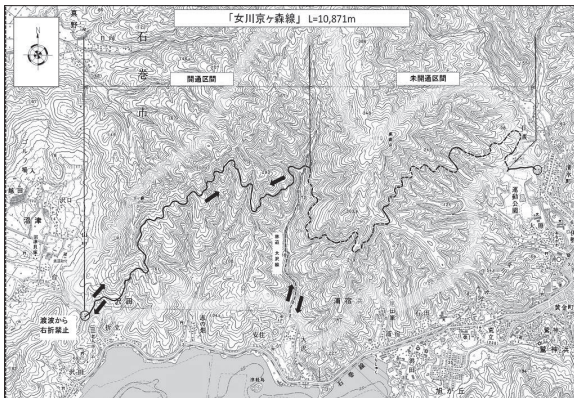
栗原市 指導標

(林業振興課林業基盤整備班)

広域基幹林道「女川京ヶ森線」が部分開通しました

県では平成九年度から石巻市と女川町を広域的に結ぶ林道「女川京ヶ森線(全長約十・八線)」を開設してきましたが、去る九月二十二日に石巻市沢田地内から女川町浦宿浜地内に至る約五・三線を石巻市・女川町に移管し、一般の通行を開始しました。

当路線は、二市町の広域的な森林整備を目的とするほか、二市町を結んでいる国道三九八号線が災害等で通行できない際の迂回路としても位置づけられて



います。

今回の開通区間は本来、平成二十三年度に開通予定でしたが、完成間近に発生した東日本大震災による被害の復旧等のため開通が遅れていました。震災時、国道三九八号線が不通となり、当路線の重要性が改めて認識されたところです。今回の開通により、周辺森林の整備推進はもちろん、非常時の移動ルートとしての役割にも大きく寄与するものと期待されています。

なお、当路線の石巻市側起点への進入は左折のみとなっているため、石巻市渡波方面からの



石巻市沢田地内入口 (渡波側からの右折進入不可)

右折進入はできません。また、現在、残区间工事のため、工事用車両が通行しており、御利用の際は制限速度を守り、十分に注意して走行願います。今後も早期の全線開通に向けて取り組んでまいります。

(東部地方振興事務所)

登米市産原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限が二部解除!

平成二十三年三月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故は、県内にも大きな被害を与え、特に農山村地域の主要産業の一つともいえる原木しいたけ(露地栽培)が出荷制限されるなど、地域経済に大きな影を落としていきます。

平成二十五年度以降、県では登米市と連携し、出荷制限解除を目指し生産者と打合せを重ねてきました。打合せでは生産者から「地元の木は当分使えないだろう。他県から安全な原木を購入する以外考えられない。」「国の補助制度が無くなったら、県や市の手厚い助成を希望する。」といった前向きな発言・要請がありました。

平成二十六年度になり、県のマニュアルに基づく栽培工程管理に努めてきた二人の生産者(各一ロット)について、基準値を超えない安全な原木しいたけ(露地栽培)の生産及びその出荷管理が可能となったものと認められ、本年八月二十六日付けで国から出荷制限が解除されました。

た。

早速、出荷制限解除の情報提供をしたところ、生産者から「思ったより短期間で解除ができ、一人、祝杯を上げています。」「宮城方式が浸透した生産者が増え、お互いが切磋琢磨して原木しいたけ生産の技術向上ができる 때가来るといいなあと、思っております。」といった、うれしいお便りを頂きました。今後の課題は、①安心して使用できるきのこ原木の安定供給、②原木補助事業の継続、③栽培工程管理に基づく「掛かり増し経費」の東電へのスムーズな損害賠償請求、の三つです。県では、引き続き登米市と連携し、生産再開に向けて支援してまいります。



出荷制限解除されたほだ木の設置状況

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

「登米市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会」が設立

登米市内の原木しいたけ(露地栽培)の生産再開を目指している生産者四人、JA二者及び直売所の代表一者による協議会が八月二十七日(水)に設立されました。

登米市長が発起人となり開催された設立総会では、県(登米地域事務所)がオブザーバー参加し協議会の運営支援を行い、事務局は登米市農林政策課が務めました。

総会では、「生産再開の人を中心として、さらに希望者を募り協議会に入ってもらい、しっかりとした生産管理体制を築きたい。」「(協議会は)難しいので入らない」という雰囲気が出ないように」といった意見が出されました。

会長に就いた生産者の芳賀裕さん(登米市東和町)は、「たった四名の生産者からスタートするが、協議会を頼りに生産再開を進めたい。市・県にリーダーシップをとっていただきスタートラインに立てた。一人でも多く、生産再開できるよう頑張りたい。」と決意を述べました。

協議会は、①県が定めた「きのこ栽培における放射能対策作業マニュアル」の生産者への周知徹底、②出荷前検査等の実施方法の周知、進行管理、③ラベル表示の確認等の出荷管理、④研修会の開催、等を行います。

県内で初めて国による原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限が一部解除された登米市では、「協議会」による原木しいたけの生産管理・出荷管理とともに、登米市産原木しいたけ(露地栽培)の生産推進が期待されます。



(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限解除に向けた生産工程管理研修会を実施しました

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、県内の二十一日町村で原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限指示の措置が講じられていましたが、平成二十六年八月二十六日に登米市の生産者二名の原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限が解除されました。

これを契機とし、栽培再開の取組が加速するよう出荷制限が解除された登米市の生産者のほだ場を会場に研修会を実施したところ、県内一円から、出荷制限解除を目指す生産者及び市町村・JAの担当者など約五十名が参加しました。

出荷制限の解除には、①県が定めた栽培管理に即して生産されていること、②発生したしいたけが食品基準値以下であること、③制限解除後も安全・安心を確保する出荷管理体制が整備されていること、などポイントを絞って説明を行いました。

現地研修では、県の栽培マニュアルに沿って整備した人工ほだ場の清浄な環境づくりや、

地面をシートで覆い丸太の上にはほだ木を置くなどの放射性物質の低減対策などを視察したほか、森林ほだ場の林床からの影響を低減する木材チップの敷設状況などを確認しました。

研修会に参加した生産者は、栽培管理に対する意見や感想を交しながら、「しっかりと栽培管理を行い、早く栽培再開に取り組みたい。」「見て良かった。参加して良かった。」と話していました。

今後も原木しいたけ(露地栽培)生産の再開に向けた研修会を継続して開催するなど、引き続き生産者の支援に努めてまいります。



ほだ場の栽培管理に見入る研修参加者

(林業振興課地域林業振興班)

認定森林施業プランナーの育成について

森林整備を効率的に行うためには、提案型集約化施業を進めていく必要があります。その中心的な役割を担うのが、地域の森林所有者をまとめ、施業方針を決定し、施業提案を行うことができる森林施業プランナーです。

森林施業プランナーになるために特別な資格は必要ありません。しかし平成二十四年度から、一定の技術と知識を有する森林施業プランナーに対して、森林施業プランナー協会が試験をもとに認定する制度が始まりました。認定を受けた森林施業プランナー(認定森林施業プランナー)は、高い能力を持つ地域のリーダーとして森林整備を担います。

現在、宮城県には認定森林施業プランナーが五名いますが、三名が栗原地域を管轄する栗駒高原森林組合に所属しています。うち一名は経験豊かな五十代のベテラン職員ですが、二名は二十代、三十代の若手職員です。彼らは更に経験を重ねるべく、日々の業務に取り組みんでいます。

ます。

栗駒高原森林組合では、若手職員が多いため、組織を挙げて人材育成に取り組みしており、その一環として積極的に認定の取得を目指しています。当事務所では、それを後押しするため、環境税を財源とする宮城県森林施業プランナー育成研修制度を活用し、若手職員の技術向上に向けた研修を実施しています。



プランナーを中心とした議論の様子

(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

巨理町蛭塚(鳥の海)の 災害復旧工事が 進んでいます

東日本大震災の大津波により被災した仙台地方振興事務所管内の海岸林のうち、県が直接復旧に携わっている箇所は巨理町鳥の海に浮かぶ蛭塚です。

蛭塚は周囲八〇〇㍎弱の島で、全部が潮害防備保安林兼保健保安林に指定されており、町民の憩いの場として親しまれてきました。

しかしながら、津波により島周囲の護岸工(コンクリート柵)が破壊されたことで島自体も大きく浸食され、島を覆っていた森林も大半が失われてしまいました。

県ではその復旧を目指して平成二十四年度から本格的に災害復旧工事に着手、本年十月末現在では写真にあるように周囲の護岸工事のほとんどが完成し、森林基盤造成盛土が着々と進んでいます。盛土終了後は仮棧橋を撤去し、来年三月には復旧工事が完了する予定です。さらに、平成二十七年からは引き続き治山事業で海岸林の植栽を実施することとしています。

蛭塚には元々湿地が存在し、底生生物をはじめとする稀少な動植物の宝庫であったことから、工事においては専門家からの意見を参考に、湿地を可能な限り残すことや海水の流入を確保するため開口部を追加するなど生物多様性に配慮した計画としました。

蛭塚の位置する荒浜地区(写真上方)では、避難を余儀なくされていた住民の方々が次第に戻ってきており、住宅の新築も目立ってきました。蛭塚が再び緑に覆われた豊かな島に戻るとともに、地元の方々にとって再生のシンボルになることを願ってやみません。



護岸工事まで完成した10月現在の蛭塚

(仙台地方振興事務所)

大崎市末沢復旧治山工事への思い

北部地方振興事務所の平成二十六年実施の治山工事のうち、大崎市の市立大崎病院鳴子温泉分院裏の山腹工事(末沢復旧治山工事)がまもなく完成します。

当箇所は、高低差約六十㍎の斜面で、東日本大震災により崩壊が拡大したため、斜面の安定化対策を実施しました。

工事は二年前、私の現事務所着任の後に始まり、初めて経験する本格的な山腹工事でした。

前任地では工事経験豊富な先輩職員が山腹工事を一手に引き受けており、高所恐怖性の私は、それを尻目に「絶対無理」と狸寝入りを決め込んでおりました。

しかし、現事務所着任時には、二箇所の法面工事を担当することになり、当初から腰の引けた業務になりました。そのためか一期目の設計では、積算上の誤りに入札者からの質問を受けて気づくという失態を演じ、入札中止の憂き目に遭ってしまいました。この工事も昨年中に完了することができましたが、斜面下部にある土留工では、斜面下部に送る配管の位置を調節しても詰まってしまいうことがあり、梅雨

空の中、変わらぬ状況に、やはり駄目だと諦めて帰庁する車中で、「最後の一回で成功」との現場からの朗報を聞き、当時の班長と喜び、土木工事の醍醐味を味わいました。

この工事は二期で完成するはずでしたが、計画額の見込み違いにより、三期かかることになってしまいました。また、この二期目の工事では法枠工事を全て完了する予定でしたが、途中の労務賃金の上昇に合わせ、工事内容を直した結果、部分的に未完成のまま完了することになりました(写真中央部)。



これまでに、数々の失敗をする度に、施工を担当してくださった工事関係者の方々や、関係機関との調整のため各担当職員の助けを借りました。そのおかげで、工事完了にこぎ着けることができました。完成の暁には、永く地域の安全に寄与する工事として誇れるものになるものと思います。

(北部地方振興事務所 滝澤)

北海道・東北地区 第五十回 治山林道研究発表会が 開催されました

開催されました

去る八月二十八日、仙台市青葉区の仙台市福祉プラザで「北海道・東北地区第五十回治山林道研究発表会」が開催されました。この発表会は、北海道・東北地区森林土木研究会が、治山林道技術の研鑽・研究及び会員相互の情報交換を目的に毎年七道県が持ち回りで開催しているもので、五十回目の開催となる今年の発表会には、東北森林管理局、七道県、市町村及び民間企業の治山林道関係者ら約一九〇人が参加しました。

今回は、治山八件、林道五件、計十三件の発表があり、海岸防災林の復旧・再生に関する発表の四件のほか、震災関連以外の災害復旧に関する発表が二件と、例年より災害対応に関連した発表が多く見られた特色ある発表会となりました。

発表終了後には各発表に対する審査が行われ、「集水井工における集排水管の閉塞対策」、「本数調整伐(間伐)の施業効果」、「豪雪地における林道標識の雪害対策」に関する発表の計

三件が優秀賞を受賞しました。また、これらの発表とは別に、「宮城県における海岸防災林等の復旧・再生と今後の取組」と題し、東日本大震災で被災した海岸部における治山関係被害への対応について、本県森林整備課より状況報告をしました。

これまで行ってきた治山対策や林道の整備のみならず、震災に伴う大規模な復旧工事の実施、台風や集中豪雨による土砂災害に備えた施設の効果的な維持管理など、治山林道分野に求められる課題も多様化しています。

今回の発表成果が、今後の治山林道事業の効果的な実施に大きく貢献することを期待するものです。



治山林道研究発表会の様子

(森林整備課治山班)

宮城県林業公社が再建に 向けて取組んでいます

一般社団法人宮城県林業公社(以下「公社」)は、これまで自ら造林できない土地所有者に代わって造林とその後の管理を担いながら、九〇〇〇〇〇を越える森林を造成し、本県の森林資源の充実や森林の公益的機能の發揮とともに、事業実施を通じた地域の雇用創出、農山村地域の振興に貢献してきました。

しかしながら、木材価格の低迷等により経営が悪化し、昨年七月に債務整理と経営再建を目的とした特定調停を仙台簡易裁判所に申し立てました。当事者である県でも慎重に検討、協議を重ねた結果、同年十月に特定調停が成立し、公社の債務整理が行われたところです。

さらに今年度から公社では、特定調停に伴う再建計画に基づき、平成三十三年度までの自立的経営の確立を目指し、以下の取組を始めています。

● 県産材の供給推進

東日本大震災からの復興に当たり、復興住宅において県産材需要が増加してきており、資源として充実してきた公社分収林

において、年間三〇〇〇〇を目標とした利用間伐を推進していくなど震災復興に向けた原木の供給を行ってまいります。

● 公社の経営改善

前述のとおり利用間伐の推進等により収入の増大に努めるとともに、公社が培ってきたノウハウを生かして山林調査等の受託事業の拡充に努めるなど新たな収入の確保も行っていく予定です。また、組織体制の見直し等による管理経費の縮減や、発注方法の見直し等による事業コストの削減を行ってまいります。

● 分収林契約後の森林保全対策

土地所有者の希望により、再造林の実行方法について助言するとともに、広葉樹林化する場合は、広葉樹林へ誘導する施業方法を助言します。

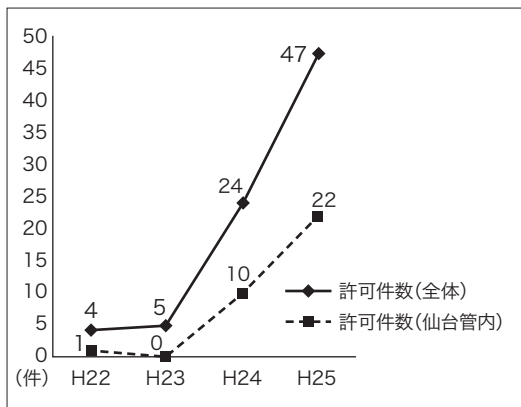
今後県としても、森林・林業の復興や県土保全等に向けて、公的森林管理機関としての役割を担う公社に対して、必要な助言・指導を行ってまいります。



(森林整備課森林育成班)

林地開発が急増しています

県が立てている地域森林計画の対象民有林で一畝を超える開発を行う場合、県から林地開発の許可を受ける必要があります。当仙台地方振興事務所管内における林地開発は、東日本大震災以降、復旧・復興事業の本格化に伴い、これら事業に使用する土砂採取を目的とする開発を中心に急増しています。その新規許可件数は、震災前に比べ、昨年度で約二十倍にも増えている状況です(左図)。



近年の林地開発新規許可件数

このような中、当管内においては、今年度、無許可開発や大

規模な無届伐採、許可条件に反した開発が発生しました。県としては、更なる監視体制を強化するため、現地での調査・指導に加え、防災ヘリコプターを活用した上空からのパトロールも実施し、関係機関と連携しながら違反行為の未然防止と早期発見を図ることとしています。



現場指導の様子

さらに、この取組には、県民の皆様一人一人の「目」も有効となります。林地開発許可を受けた開発地には、許可済みであることを示す標識が立てられていますので、もし、違反が疑われるような現場等を発見された場合は、最寄りの地方振興事務所(地域事務所)に情報をお寄せください。

(仙台地方振興事務所)

★自然の大切さを学ぶ★ 第三十九回 宮城県みどりの少年団大会 が開催されました

今年で三十九回目となる宮城県みどりの少年団大会が、七月二十五日に名取市の県農業・園芸総合研究所で開催され、県内各地から二十一団約三〇〇人が参加して、植樹活動・式典・交流会などが盛大に行われました。

晴天の下、研究所敷地内の植樹会場では、ヤエヤマブキ、シバザクラなど広葉樹の苗木三四五本が少年団員によって一本ずつ丁寧に植樹されました。また、隣接する「高館いこいの森」遊歩道を散策しながらのウォークラリー、東日本大震災で流失した海岸防災林の再生に向けた松くい虫抵抗性クロマツ(コンテナ苗用)の種まきも併せて行われました。

式典では、公益社団法人宮城県緑化推進委員会の森海岸防災林再生専門監からの「海岸防災林の話」に引き続き、登米市立米川小学校みどりの少年団から日頃の活動内容が発表され、活発で模範的な活動に拍手喝采が起こりました。

交流会、レクリエーションでは、NPO法人宮城県インストラクター協会等が準備した各コーナーで、木や竹、木の実や枝を使ったネイチャークラフト体験などが行われ、賑わいの中、団員の交流も深まり有意義な大会となりました。



葉っぱを使ったお面づくり



植樹活動の状況

(自然保護課みどり保全班)

登米市の森林で「カーボン・オフセット」しませんか？

登米市と米川生産森林組合は、森林(市有林と組合有林)が吸収した二酸化炭素量について、「オフセット・クレジット(J-V E R、以下「クレジット」)として環境省から認証を受けました。

このたび、両者は、このクレジットを十割CO₂ずつ付加したステッカーを共同で販売することになりました。このステッカーを一枚購入することにより、「ガソリンであれば四・三一リットル消費分」、「東北地方の夏期における一般的な家庭の約一日分」に相当する二酸化炭素排出量(十割CO₂)をオフセット(相殺)することができま

す。なお、ステッカーの販売収益は、登米市と米川生産森林組合による間伐などの森林整備費用に還元されます。地球温暖化防止のための二酸化炭素削減や森林整備に貢献してみたいけれど、何か身近な方法がないかと考えている皆様！

この機会に是非このステッカーを御購入いただき、愛車や

御家庭の冷蔵庫、エアコンなど電化製品に貼付し、「カーボン・オフセット」に取り組んでみてはいかがでしょうか。

【ステッカー概要】

- 形状…円形
- サイズ…直径十センチ
- デザイン…「カーボン」の頭文字「C」を図案化
- カラー…ブラウン、オレンジ、ブラック、グリーン、ブルー、以上五色

【価格(税込)】

- 各色とも一枚三二四円
- 申込み・問い合わせ先
- ① 東部地方振興事務所登米地域事務所 林業振興部
TEL 〇二二〇(二二二)六一二五
- ② 登米市農林政策課
TEL 〇二二〇(三四)二七一六
- ③ 米川生産森林組合
TEL 〇二二〇(四五)二〇四九



オフセット・クレジットステッカー

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

研究情報コーナー

コンテナ苗等を活用した 再造林コスト低減への取組

○研究の背景

木材価格の低迷による採算性の悪化等の理由から、皆伐後の再造林放棄地が年々増加しています。なかでも、地拵え・植栽・下刈りの一連の作業は、コスト削減技術の開発・実証が大きく立ち後れており、林業の持続性を危うくしています。

近年、コンテナ苗をはじめとして低コスト化に繋がる革新的な技術が提案され、当該技術の適切な現地適応化や、造林木の下刈り等初期保育の低コスト化及びその関連技術に、大きな期待が寄せられています。

そこで、独立行政法人森林総合研究所を中心に十六都道府県・六大学・二企業が結集し「コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究」プロジェクトが今年度から始まりました。

その中で本県は「コンテナ苗植栽の事例解析とデータ集の作成」「下刈り省略施業の適用条件の評価と実証事例の提示」の二点について検証することとな

○研究概要

今回の研究では、①コンテナ苗等が植栽された造林地の立地条件や生育状況に関する多量情報収集によるコンテナ苗の生育特性(生育経過)と、②植栽木の健全性評価、植栽地の地形・環境要因との関連性、以上の二点を把握します。

一方、造林施業上、最も高コストの工程とされる下刈り作業の軽減を図るため、植栽木と雑草木との競争の面から下刈り省略施業の適用条件を評価し、その実証事例を提示します。



下刈りは労働負担大(育林コストの約4割を占める)

○研究成果の普及

コンテナ苗植栽成績による適地と、植栽後の雑草木競争効果を解明し、コンテナ苗等の地域に適した再造林システムを発信することとしています。

(林業技術総合センター環境資源部)

森林管理署情報

製品生産請負現地検討会を開催しました

七月三十一日(木)、宮城北部森林管理署及び仙台森林管理署は、素材生産事業を受注している事業体を主な対象として、製品生産請負現地検討会を宮城北部森林管理署管内登米市東和町銅円沢国有林六二八林班において開催しました。

当日は、平成二十六年度両署の受注先九事業体から現場担当者三十六名が参加しました。また、今後の民有林支援の参考となるよう県内各地域で活動している民有林フォレストア十一名にも参加いただき、情報共有を図りました。



森林作業道作設

はじめに、森林作業道作設では、安全で長期使用に耐える作業道の作設を目的とした「伐開幅・波形線形による排水・はぎ取り表土による法面保護工」等の注意点を現地での実演を交え説明を行い、重機オペレーター等に周知しました。

採材方法の検討では、懸案となっている三・〇〇から四・〇〇の採材を念頭に各事業体等が模擬採材を実施、その採材方法について確認、検証を行い今後の事業に資することとした。

最後に、東北森林管理局青森事務所副所長から管内国有林での林業労働災害の発生状況と災害防止についての注意喚起が行われ、検討会が終了しました。



採材の検討

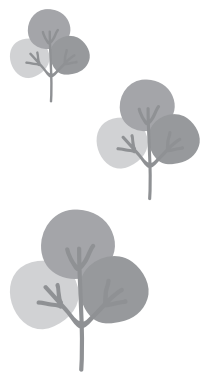
(仙台森林管理署)

「社会貢献の森」において小学生が総合学習を行いました

九月二十四日(水)、山形県酒田市立泉小学校六年生児童八十三名が、仙台市若林区荒浜の谷地中林国有林八七林班において、総合的な学習「わたしたちと松林」を行いました。

この箇所は、山形県酒田市で海岸林保全活動を行っている「万里の松原に親しむ会」と仙台森林管理署が平成二十四年度に「社会貢献の森」協定を締結した〇・一一の箇所となっており、

酒田市立泉小学校では、従前から酒田市、「万里の松原に親しむ会」等の協力により庄内海岸の防災林について学習を行っています。今回は、「社会貢献の森」の保全活動の一環として、協定箇所の草取り、平成二十五年春に植栽したクロマツを寒風や飛砂から守るため葦簣の設置等を行ったものです。



葦簣よしずの設置の様子

(仙台森林管理署)



寄贈の千羽鶴

最後に、「これから海岸防災林の再生に向けて、頑張ってください」との願いを込め児童の皆さんから当署に千羽鶴を頂き、その復旧に向け気を引き締めています。

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成26年9月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	9,720	—
		16~30	10,800	9,000	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	—	10,080
	4.00	10~13直曲	8,500	9,720	9,720	9,720	9,720	10,080
		14~18	10,080	9,720	9,720	9,720	9,720	10,080
		20~28	—	10,080	10,080	10,080	—	—
		30上	—	10,080	10,800	10,080	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,800	—	—	—	10,080	10,080
		30上	10,800	—	—	—	10,800	10,080
1.95	16上	6,120	—	6,120	6,120	6,120	6,120	

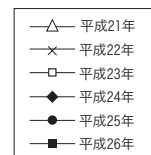
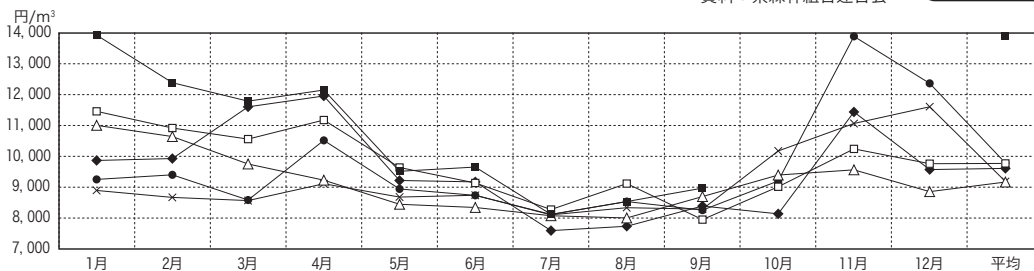
資料: 県森林組合連合会

概況

素材動向

各センターへの入荷は先月同様少なく材不足となっている。原木価格は前半は横這いで推移していたが、後半は小丸太を中心に値上がり傾向になり10,000円/m³を上回ってきた。今後、虫害等の被害もなくなり、各製材所は在庫の確保も含めた仕入れに入ることから価格は値上がり傾向が続くと思われる。

(宮城県森林組合連合会)



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成21年	973	893	886	884	770	716	719	760	741	840	791	844
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1010	1001	917	781	851	859	891	912	911			

資料: 仙台中央卸売市場

概況

- ・平成24年分県産平均価格=811円/kg
- ・平成25年分県産平均価格=861円/kg
- ・平成24年は原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたことにともない価格は下落傾向であったが、平成25年度は対前年比(+50円)と持ち直し傾向。
- ・県産しいたけの市場占有率は対前年比2%増となり、震災前の水準に持ち直し傾向。(仙台市場県産占有率64%)
- ・平成25年次の宮城県産の入荷量については、前年を約12t上回る404tとなった。
- ・kgあたりの平均単価については、対前年比で50円高。(861円/kg)

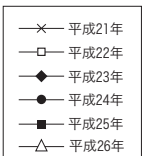
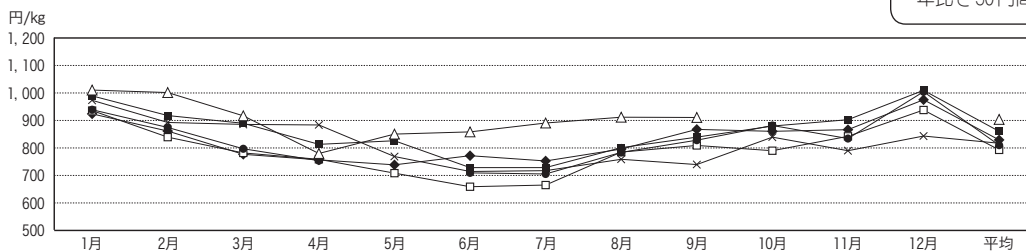


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(平成26年9月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成26年9月(戸)	1,904	1,351	553	71.0
平成25年9月(戸)	1,987	1,450	537	73.0
前年同月比(%)	95.8	93.2	103.0	—
平成26年1月~26年9月(戸)	18,947	11,348	7,599	59.9
平成25年1月~25年9月(戸)	16,702	11,338	5,364	67.9
前年同期比(%)	113.4	100.1	141.7	—


資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

新設着工数、木造戸数及び木造率は対前年同月比較で減少しているが、非木造は微増している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～



株式会社 サカモト

自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL (0224) 58-1100 FAX (0224) 58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小山 松夫
理事 佐々木 市夫
監事 阿部 貢三
監事 小澤 幸三

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて住んでしみじみ 木の住まい
宮城県木材協同組合
理事長 佐藤 豊彦

宮城県木材需要拡大協議会
会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター
会長 佐藤 豊彦

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 尾花 健喜智
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail : sasakimi@proof.ocn.ne.jp

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 **宮城県林業公社**
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
E-mail : miya-rin@violin.ocn.ne.jp <http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/>

地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL/FAX 022-217-4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp

U R L <http://www.tutuikoki.co.jp>

海岸防災林の再生を 支援しています!

海岸林の再生に参加したい企業や
ボランティア団体等をソフト面で支援しています。
お問い合わせは下記まで。



公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、
森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166
大衡総合センター 022-345-2205
岩出山木材センター 0229-72-1877

東和木材センター 0220-45-2240
津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

宮城県農林種苗農業協同組合

組合長 太田清蔵

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022)222-3661 FAX (022)222-3688

林業の を伝える月刊誌



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号

編集協力 宮城県農林水産部林業振興課 ☎022-222-3011